

明日にむかって

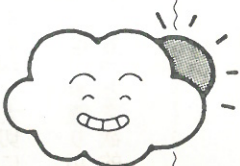
発行/社会福祉法人 陽光会 陽光保育園 編集/陽光保育園子どものしあわせを願う会
発行日/1993年9月25日 住所/東京都板橋区大谷口上町23-1 ☎(3956)1068

13号

去る9月12日、「青空保育から45年・地域と共にあゆむ陽光保育園の歴史を語る集い」が平沢静子先生(理事長)を囲んで催されました。1949年、終戦間もない混乱の中、水道タンクの銀杏並木で青空保育を始めたのが陽光保育園の誕生でした。何も無いので民主保育園連盟や区内保育園から紙芝居を借りたり、保母まで派遣してもらい、地域の協力者にささえられてここまで歩んできた陽光保育園。「無力の私がこの仕事を続けてこられたのはみなさんのおかげ」と控え目に語る平沢先生です。参加者からの質問を受けて、生い立ちやご主人との出会いなども語られました。50名余の参加者一人一人の心の中に陽光保育園の創設の理念と先生のお人柄がしっかりと伝わったようです。心に残るとても素晴らしい集いでした。

夏、思いっきり

水あそびびやりたい!



93ジャブジャブ池が区の
予算削減対象になった

「どうして今年は八月の最後の日までやってないのかしら」「やっとならなくて、子ども達も楽しみにしているのにね」「公園課に電話して聞いてみる?」

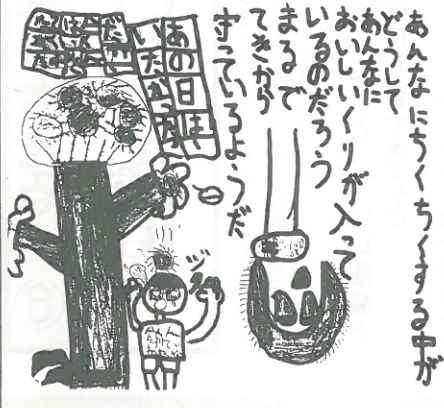
と、夏の終わりの事務室での会話。早速公園課に問い合わせたところ、「今年は予算削減のため、初めと終わりで6日間、短くなったんです」「ええっ!」と事務室に居合わせた職員の声。

「いつもの年のように、最後の日までの開設をお願いしてもらいましょう」と、園長も保育課に電話を入れました。「わかりました。連絡してみましよう」と保育係長さん。

園長は続けて地元の小野修悦区議にも尋ねてみたところ、「知りませんでした。早速公園課に話しておきましょう」として翌日、公園課長に直接お願い(交渉)することになったのです。

「皆さんのおっしゃることはよく解りますが、諸般の都合で予定通り八月二十八日で終了したい。来年は何とか従来通り開設できるように頑張ってみます」との回答でした。

クルミの中 中川壯士



卒園児(現小学4年生)、1922年(小学3年生の時)の作品

「今日は何の日か知っている人」「ハイ」「はい」「ハイ」と賑やかに手が上がります。「そう! 陽光保育園のお誕生日です」「陽光保育園はざーっと昔、戦争が終わったばかりの頃に生まれました」「どうやって生まれたか、お話をします」真剣な子ども達のまなざしが集まります。「みんなのようね、オギヤと生まれたのではありません」「戦争が終わったばかりで、お父さんもお母さんも、お金の無い出しや仕事を見つけるのに一生懸命でした。でも、子ども達は遊ぶところもなく、ほろり出されていたので、何とかしなければと、大人達みんなで相談したのです」「そこで、水道タンク前の広場に、子ども



45周年記念の平沢静子先生を囲む会。創立の理念等興味深い話をたくさん聞きました

が増えている今日、子ども達にとつて夏の水遊びは欠かせません。昔、東京のこの板橋でも、川で泳いだり、原っぱや道路でも遊べたのです。今、私達の住む町には、子ども達が安心して遊べる場所は数少なくなっています。せめて夏の間のジャブジャブ池、何とか残してやりたいものです。

創立45年、 転換期を迎える保育園

一九九三年八月二十五日。陽光保育園は四十五回目の創立記念日を迎えました。

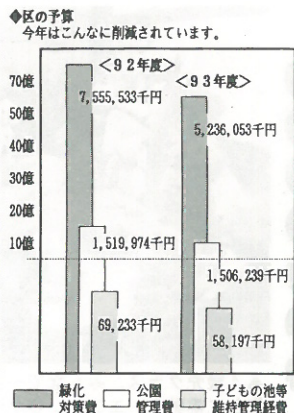
毎年八月二十五日には会食をします。今年もメニューは赤飯、ブリの照り焼き、煮しめ、すまし汁、そしてスイカ。

「今日は何の日か知っている人」「ハイ」「はい」「ハイ」と賑やかに手が上がります。

「そう! 陽光保育園のお誕生日です」「陽光保育園はざーっと昔、戦争が終わったばかりの頃に生まれました」「どうやって生まれたか、お話をします」真剣な子ども達のまなざしが集まります。「みんなのようね、オギヤと生まれたのではありません」「戦争が終わったばかりで、お父さんもお母さんも、お金の無い出しや仕事を見つけるのに一生懸命でした。でも、子ども達は遊ぶところもなく、ほろり出されていたので、何とかしなければと、大人達みんなで相談したのです」「そこで、水道タンク前の広場に、子ども



怪獣公園のジャブジャブ池で遊ぶ子どもたち。夏、子どもたちに水遊びは欠かせない



今、女性の社会進出や核家族化、そして少子化傾向が続く中で、厚生省はさまざまな施策を打ちだしています。

特に近年、めまぐるしく変化する経済界の要望にこたえての「プラン」は、時に既存の保育園の実態に即さないばかりか、これまで築いてきた保育制度を崩されるのではないかと不安になるような内容も多々あります。

子ども達や人々のくらしを優先するのではなく、戦後続いてきた経済優先の日本の政界・財界の考え方、やり方に拍車がかかり、とても気になる今日この頃です。

人々のくらし方、働き方、生き方が変化し、その中で当然子育てのあり方も変化しています。地域の保育園への期待、願望も多様化し大きく変わって来よう。保育園は社会情勢の変化の中で大きな転換をせまられていることも事実です。

「みんなで築いたみんなの保育園、新しい時代にむかって仕事を続けていくことは容易ではないでしょう。あせらずに子ども達をしつかりとらえながら、皆さんご支援を仰いで一杯頑張りたいと思います。応援してください。(園長 星野 紀)

親子でいっしょに遊ぼう

★リズム、うた、散歩、砂あそびなど★
◆陽光保育園では地域の乳幼児、お母さんを対象に、月1回「親子でいっしょに遊ぼう」の会を開催しています。お気軽にご参加ください。無料です。
【場所】 陽光保育園
【時間】 午前9時~11時
【対象】 0歳児~5歳児
【今後の日程】 10月21日(木)/11月10日(木)/12月22日(木)/1月11日(火)/2月10日(木)/3月8日(火)
◆参加ご希望の方は事前にご連絡ください。☎3956-1068

陽光インフォメーション

- 陽光保育園運動会
日時 10月17日(日) 9時~12時
会場 板橋区立第十小学校校庭 (雨天の場合は体育館)
- 卒園児の参加競技もあります。さそいあつておでかけください。お会いできるのを楽しみにしています。
- 共育講座
すこやかに育てよう
子ども心から
日時 10月3日(日) am10時~12時 (開場 9時30分)
会場 陽光保育園ホール
講師 眞弓定夫先生(小児科医)
会費 2,000円
●保育 2歳児以上の未就学児
●オヤツ代200円いただきます
主催 陽光保育園

ひまわり募金ありがとうございました

- 個人 波方美・10・9・12/敬称略・順不同
●個人 良雄・横田和・松本恵子・草場ツヤコ・谷本和夫・波方正男・石塚ゆり
●奥山三重子・今井茂子・福田花子
●団体 父母の会・うたごえサークル
たんぼほ 募金箱(パザー7月)・歴史を語る集い(9月12日)他
☆ひまわり募金...左記の口座で随時寄付金として受け付けています
郵便振替口座
番号 東京 4-25 167
名称 社会福祉法人 陽光会
☆ひまわりテレフォンカード...お申し込みは、保育園事務所まで(千円)

園児募集

★3、4歳児若干名(すぐ入れます)
★来年4月からの入所申請は、区報でお知らせがあります(12月頃)
申請は板橋区福祉事務所へ。入園案内は当園にもあります。問合せ、ご相談はいつでもどうぞ。
平成6年度 常勤保母募集
来春、保母学校卒。男子可。子どもたちと働くお母さんのために、情熱をもっておしみなく働ける25歳くらいまでの有資格者。特例、産休明け、障害児保育をしています。

子育ての原点・0歳児

子どもはみんな、生れながら、成長、発育しているとする大きなエネルギーをもって生まれます。しかし、生まれたばかりの赤ちゃんは、体も心も未熟で、自分ではまだ何もできません。この人生最初の一年に私たち大人がどのような文化を与え、また、どのように育てていくのか、と影響を与えます。しかも、0歳児期は人の一生のなかでも最も急激に発達する大切な一年といえます。

子どもにとっていい服装と感性を育てること

六カ月を過ぎると、手や足などの運動機能もだいぶ発達して、寝返りが自由にできるようになります。腰をしっかりとひねって、足の親指で床をけって寝返りするようにになると、次にはずり這いで前進しはじめます。この時期になると、手足の運動をさまたげない服装を心がけることが大切になります。日光保育園では、オムツを使うのは生後五〜六カ月までで、寝返りをするようになると、遊ぶときはオムツをはずし、木綿のパンツ一枚とかぶりのTシャツだけという服装にします。

声をたてて喜ぶことは発達につながる

まだ首もすわらず、あおむけに寝ているだけのときでも、赤ちゃんは「手」「足」をよく振って運動しています。あやすと喜び、なお振ります。また、動くものを目で追い、音もだんだん聞き分けるようになり、お母さんの顔を見つめてにっこりと微笑んだりもします。四カ月頃になると、より表情が豊かになり、あやすと「キャッ、キャッ」と声をたてて笑うことも多くなります。また、さかんに「アックン・グング」とか「バブバブ」という声（喃語）を出して、おしゃべりを楽しんだりするようにもなります。



この時期にお母さんは、赤ちゃんとしつかり向きあい、目を見つめて

寝返りができるようにするまでは日光保育園では布オムツを使用しています。赤ちゃんが泣いて、「不快」を訴えるとき、オムツを見てみると、オシッコでびしょりになっていることが多いのです。大きな声で「オシッコでたー。つめたーよ」と泣いて訴えてくる赤ちゃんに、保母は「えらいね、気持ちよくしてあげるよ」と声をかけながらオムツを取り替えてあげます。こんな小さな赤ちゃんにもちゃんと感じ

分ける力があり、それがとてもいとおしく、素晴らしいと思えるのです。では、紙オムツではどうでしょうか。テレビのCM等でも便利そうに宣伝されていますが、どの紙オムツも高分子吸収体を使っていて、なんとオシッコ三回分も吸収し、赤ちゃんのお尻からオシッコの感じが消えるようになってきています。たしかに洗濯の手間は省け、便利かもしれません。これは、赤ちゃんの感じ分ける力は育ちません。

紙オムツではなく布オムツを

布オムツはオシッコのたびに取替え、お母さんの手間は多くなりますが、そのぶん赤ちゃんに向かい合う時間が増えます。これも大事なことです。オムツ交換の際、お腹を両手でこすってやったり、両腕をバンザイのように上にあげてやったり、両脚の膝を曲げてお腹につけてやったりを繰り返してあげると、赤ちゃんは声をたてて喜びます。

栄養は手からも

日光保育園では栄養士さんが献立をたて、個々の子どもの発達にあった離乳食を作っています。五カ月頃の赤ちゃんは、保母のひざに抱かれて食べさせてもらいますが、そんな小さな赤ちゃんでも必ず手のひらに保母の手やスプーンに触れてきます。この手をのびしてやることも、発達のひとつです。ですから、大切にします。そして赤ちゃんは、お座りができるようにになると、もっと意欲的に食



べ物に手をのびしてくるようになります。そんな赤ちゃんのために、日光保育園では、野菜などを細かく切り刻むだけでなく、大きめに切った柔らかく煮て、赤ちゃんがとりやすいようにしています。自分の手でしっかりと握り、口に運び入れることを大切にしているのです。このとき、赤ちゃんは食器の中に手を突っ込んだり、衣服を汚したり、床にまで食べ物を持ち込んだりするので、家ではお母さんの仕事が増える大変かもしれませんが、このような遊びの時期こそ、手の指からも発達の栄養をとりいれていけると理解して、赤ちゃんのこのような行為を大切にあげましょう。

はいはいは十分に

多くの赤ちゃんは、寝返り、お座り、はいはい、つかまり立ちと、ひとつひとつの段階を着実にたどって発達していくものです。しかし最近はいはいはしないのでつかまり立ちをしなると、どんどん先へ急ぎ、発達をたどってしまふ赤ちゃんの姿が多く見られます。昔のように広い家や広場なども少なくなり、環境の問題も大きいと思いますが、はいはいは十分にさせたいものです。八〜九カ月の頃、十分はいはいさせることは、腕や足腰の筋肉を鍛え、将来の運動機能の発達にも重要です。そして近い将来、直立二足歩行を獲得したとき、しっかりと安定した歩きができる土台の力ともなるのです。

日光保育園では、毎日できるだけ散歩にでることを心がけています。外気浴、日光浴をかねて、公園の広場にゴザを敷き、腹ばいになってオモチャであそびます。はいはいができるようになった赤ちゃんは、ゴザからすぐにはい出して、ボールや鳩を追って猛スピードではいはいしていきます。赤ちゃんは外が大好きです。はいはいをたくさんさせるためにも、積極的に外へ出かせましょう。発達は、早い時期に先へ先へと急ぐのではなく、ゆっくりでも大きくかたどってほしいと思います。(0歳児担任・宗形博美)

仲間と育つ子どもたち

93おとまり保育

●4歳児クラス 7月16日〜17日(二泊三日) 日光保育園
●5歳児クラス 7月27日〜29日(二泊三日) 民宿森越西多摩郡檜原村小岩

可愛いエプロンに三角巾を身につけてのカレーの具づくりから始まり、朝食を早目に食べて午後二時には近くの銭湯「稲荷湯」さんへ。真昼間、ちよどよいお湯にみんなしてチャポンチャポン……最高の気分でした。

夕方にはスイカ割りやぎょうざ作り。キャンプファイヤーと花火が終ると、いよいよ皆で作ったカレーを食べる時。自信と誇りに満ちた可愛い4歳の顔・顔・顔たちでした。いよいよお楽しみコーナーの始まり、代表職員による数々の手品に感動だもせず食い入りました。

そしていよいよ最後は肝だめし。今までの楽しい気分が青ざめるシーンです。「イッヒッヒッヒッ、みんな頑張るのだ！」と励ましながら内心

緑が多いし、空気はおいしいし、水は冷たいし、今年は雨の多い夏でしたが、ちよどこの三日間は天気にもめぐまれて、肝だめし、川遊び、山のぼり、キャンプファイヤーなど、いっぱい楽しいことをやってきました。子どもたちは楽しいことをいっぱいやりながら、親元を離れて三日間、不安感にうち勝って頑張ってきました。(5歳児クラス担任 小内康寛)

7月二七日から二九日までの三日間、かもしか組の子どもたち八名と保母五人は東京でも自然がいっぱい残っている檜原村小岩で宿泊保育をしました。



▲4歳児クラス。みんなで一緒にぎょうざ作りに挑戦！ エプロン姿が似合います



▲5歳児クラス。冷たい川で泳いだあとの温かい肉じゃが。とってもおいしかった

子育て1分×モ

0歳児クラス 園と父母をつなぐ連絡ノートより

★8月31日(火) 早くから目覚めた史織は、絵本の棚から絵本をひっぱりだし、少しの間一人で見ていたあと寝ている親のところへ持ってきて、「ん」と本をつきだしてきます。これにこたえないと機嫌をそこね、泣いてしまうので、朝から大変。お母さんはうちの仕事でバタバタしてい

るので、主にお父さんが被害にあいます。(どんぐり組・西村史織の母)
★8月25日(水) 昨日、園にお迎えにいったとき、麻耶がベッドにかけてある階段をのぼっていき、ベッドまで一人で上がったのにはおどろきました。しっかりと四つ這いで、両手両足をつかっているのぼり、ベッドのサクにつかまり立ちしてあそんでいました。(どんぐり組・嶋村麻耶の母)

